

アポロニア21

5
2012
May

歯科医院経営・総合情報誌

特集 インプラントとの関わり方(上)

● 12人の開業医に聞く「メリット・デメリット」「自院の対応」

● トラブル回避のためのリスク説明

● 歯科医師免許を持つ弁護士からの提言

白石一男／元橋一郎／井上孝

砂 孟 清 杉 島 康 義 眞 野 晃 寿
内 田 昌 徳 高 村 くるみ 馬 見 塚 賢 一 郎
笠 茂 享 久 築 山 雄 次 鉄 平 康 本 征 史
小 宮 山 彌 太 郎 藤 井 佳 朗 吉 本 彰 夫

甘口
刊談
安田編集室
安田登

診療報酬改定の
「哲学」を評価する

海外デンタルショーレポート

シカゴ・
ミッドウィンターミーティング2012
(上)

久保寺司／内田昌徳／水谷惟紗久



レポート デジタルコミュニケーションフェア／医院デザインフェア



高齢者の生理と病理—根面う蝕は死のサインか？

注目
連載

黒澤俊夫



インプラント
実施状況

連携

- ・年間埋入本数…137本
- ・5年前との比較…増加傾向

歯を保存するための ルールに基づいた治療



麻生歯科クリニック
治療部インプラント外科担当

眞野晃寿

Mano Akihisa

1980年生まれ。2005年日本大学歯学部卒業、藤枝市立総合病院口腔外科勤務。2008年麻生歯科クリニック勤務。

日本口腔外科学会、日本口腔インプラント学会、静岡県インプラント研究会、デンタルコンセプト21所屬。

院内ルールの制定

麻生歯科クリニック（2011年9月〜2012年3月号連載）では、独自のルールに基づいてインプラント治療を行っています。

最も重要なのは、当院の口腔管理システムに則ることができる患者さんに限り、インプラント治療を行うことです。インプラント治療だけを目的に来院した方には、予防歯科の必要性を説明します。同意が得られた後、口腔内状態が改善するまで初期治療を行い、その後インプラント治療を行います。

次に重要なのは、必ずチームアプローチで診断し、治療計画を立てるということです。補綴担当医、外科担当医、歯科技工士

の3人が治療計画を話し合い、分業制で治療を行っています。

また、治療計画決定が困難な場合は、インプラント専門医や口腔外科医に治療計画を相談し、当院では対応が難しい症例（外科的な難易度、全身疾患等）については、総合病院口腔外科やインプラント治療専門医院と連携して外科手術を紹介、もしくは当院での出張手術を依頼しています。その理由は、院内、院外で相互に連携することにより、それぞれが専門性に特化し、より良い医療を提供できるのではないかと考えているからです。

歯の保存に全力を尽くす

インプラント治療は欠損補綴としてなくってはならない治療法であると考えていま

す。しかし、あくまでも歯の保存に全力を尽くし、それが叶わなかった場合に行う欠損補綴の一つであるということです。

歯を保存できる可能性があれば、歯周治療や外科手術を含めた歯内療法を行います。当院での治療が困難な場合や治癒しなかった場合には、東京の専門医を紹介し、ここでも連携を行います。

また、保存できず、智歯などの不要歯が存在する場合には、それらを利用した自家歯牙移植術を勧めます。インプラント治療と自家歯牙移植術のどちらが優れているかは議論があると思いますが、自家歯牙移植術を選択すれば、異物であるインプラントを体内に入れることを数年でも遅らせることができます。

歯を保存できない、自家歯牙移植の適応

インプラントのメリット・デメリット

メリット

- 1 隣在歯を切削することがない
- 2 咀嚼機能を含めたQOL改善効果が大きい
- 3 埋入術式が規格化されている

デメリット

- 1 失敗すると回復が困難
- 2 初期投資、在庫、低い利益率(人件費、材料費、技工料など)といった経済的な負担が大きい
- 3 治療したことにより、新たな病気(インプラント周囲病変)を発症させる可能性がある

残念ながら歯が保存できなかったとしても、患者さんは当院の歯を保存しようとする姿勢を支持してくれていると思います。その結果、信頼関係も強くなるのではないのでしょうか。その信頼関係は患者さんと歯科医院との両方にメリットをもたらすものだと考えています。

あらかじめこのような信頼関係が確立されていれば、インプラント治療が必要になった場合も、患者さんが治療を受け入れやすくなり、もしくは自らインプラント治療を希望します。さらに、歯を保存することに全力を注ぎ、欠損歯数を少なくすることで、広範囲骨造成手術を伴うような難易度の高い手術が減少し、自院で対応できる

患者さんとの信頼関係

残念ながら歯が保存できなかったとしても、患者さんは当院の歯を保存しようとする姿勢を支持してくれていると思います。その結果、信頼関係も強くなるのではないのでしょうか。その信頼関係は患者さんと歯科医院との両方にメリットをもたらすものだと考えています。

このように、歯を保存するための治療法や各分野の専門医がいることなど、正確な歯科医療情報を提供することをルールとしています。

ではない場合に、初めてインプラント治療を含めた欠損補綴を考えます。欠損部位の両隣在歯が健全歯の場合はインプラント治療を、2歯以上の連続欠損部位には、ブリッジ以外のインプラント治療、もしくは義歯を勧めています。これらも当院でのルールとなっています。



施術風景。

症例数が増加します。

実際に、当院でのインプラント埋入本数は5年前より増えていきます(ただし、1件当たりの埋入本数は減少)。そして、自信を持ってインプラント手術を行うことができます。患者さんにとっても、難易度の高い手術を避けることは、手術侵襲、費用、治療期間などの負担軽減につながります。

歯を保存するためのルールに基づいたインプラント治療を行うことは、患者側・歯科医院側だけでなく、臨床面・経営面の観点からもメリットが多いと信じています。

2012 年 4 月 24 日

前略

この度は、『アポロニア 21』5月号にご協力いただき、誠にありがとうございました。掲載誌が出来上がりましたので、お送りいたします。ご高覧いただければ幸いです。

校正等には十分気を付けて編集に当たっていますが、万が一誤りがありましたら、編集部にご一報いただきますようお願いいたします。

今後ともよろしくお願いいたします。

草々

真野先生の原稿、「まず保存」という
考え方に共感しました。インプライト外科担当と
院内ルールのある存在は、今後とも学会ガイドラインが
整うことが望ましいと考えられるので、必須と
思います。真野先生、麻生先生に
よろしくお伝え下さい。

【編集部からのお願い・お知らせ】

■ 記事をHP等で紹介される場合は、本文が読めない程度の大きさでの掲載をお願いします。また、「アポロニア 21」〇年〇月号(日本歯科新聞社)のクレジットを入れていただきますようお願いいたします。

■ 取材等にご協力いただいた方は、掲載号を2割引でご購入いただけます。ご注文は編集部宛にお願いいたします。

(株)日本歯科新聞社

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-20-4

TEL 03-3234-2475 / FAX 03-3234-8302

apollonia@dentalnews.co.jp

水谷惟紗久